

Club BUSINESS FARMERS

『農業経営者』読者の会 会報

CONTENTS

第40回定例セミナー報告

第41回定例セミナー報告

第3回全国大会ご案内

11月の活動・参加申込書

Vol.26 2009年11月1日発行

■発行・編集／㈱農業技術通信社『農業経営者』読者の会 事務局(担当:長谷川)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-18-25 康洋ビル9F TEL 03-3360-2697 FAX 03-3360-2698

第40回定例セミナー報告

FTAが本当に日本の農業を潰すのか？

10月2日開催の第40回定例セミナーではロジスティック㈱代表取締役社長の嶋正和氏に講演をお願いした。当日はFTAに関する世界の動き、日本の抱える問題点を解説いただいた。

「FTAは日本農業全体の問題としてまとめて語られがちだが、本来なら作物ごとの議論を行うべき」というのが同氏の持論だ。コンニャク17.06%、コメ7.78%、落花生7.78%など高関税の農産物が存在する。一方で、タ

マネギ8.5%、サクランボ8.5%、リンゴ17%なども存在する。農業全体が一律に守られてきたというわけでもない。「農業」という広い言葉で議論を行うから、具体的な問題点を見つけないことができず、結果的に何も解決できないのだと同氏は語る。

例えばなぜ、韓国はFTAができて日本はできないのか。それは覚悟の違いであろうと同氏は言う。韓国では、開放の決まった産業に対しては、徹底

的に競争力を高める支援を実施する。例えば豚肉のEUとの競争では、近代化の融資資金として1000億円ほどを予算化している。意欲のある企業に対しては、改善プランのコンテストを行っている。一方、日本は輸出促進対策として28億円しか用意していない。このまま、閉鎖的なままだと、日本の農業は間接的に潰されかねない。

「キウイフルーツのゼスプリでさえ、かつては40%を補助金に頼るひ弱な企業でした。それが今では全世界に輸出するようにまできています。輸出でダメになる、ではなく世界で勝負するのだと考えていただきたい」

「遅れているのは日本だけ」
といっても過言ではない



ロジスティック㈱ 代表取締役社長

嶋 正和 氏

セミナーDVD
11月1日
発売

第41回定例セミナー報告

農薬登録問題の現場から 登録制度の現状と、合理化への提案



セミナーDVD
11月10日
発売

東京農業大学客員教授／千葉大学大学院名誉教授

本山 直樹氏

圧力に屈せず、 日本の農業を強くする政策をすべき

「私の基本的な立場は、常に科学的な事実を解明すること、農業とそれを担っている農業者を応援すること、そして何が本当の国民の利益になるのかを追求することです」

10月23日の第41回定例セミナーは「農薬登録問題の現場から」登録制度の現状と、合理化への提案」と題して東京農業大学客員教授で千葉大学大学院名誉教授の本山直樹氏にお話を

いただいた。同氏は98年に農林水産省の農業資料審議会農薬分科会委員に就任し、その後、同会の会長を務め、08年に退任。当日は、農薬が直面している問題として主に、農薬が受けている社会的バッシングと農薬登録制度に関して解説していただいた。

農薬の果たしている役割とは？

農薬の果たしている役割は3つあ

る。まず、農作物を病害虫・雑草の害から保護し、最大収穫量を安定的に確保すること。次に虫食いや傷のない高品質の収穫物の生産を可能にする。そして労働生産性の向上が挙げられる。農薬を使用しないで栽培した場合、病害虫等によりリンゴ、モモで約100%近く減収・減益となり、他品目の平均でも30〜40%減という調査結果がある。さらに除草剤は人間を昔の牛馬のような重労働からも開放した。10a当りの除草労働時間は50.6時間（49年）から1.7時間（02年）まで減少している。

社会的バッシング

「農薬バッシングがなくならない理由として、農薬の古いイメージがいつまでの残っていることがあげられます」

農薬の安全性を測る指針として、選択毒性がある。哺乳動物と防除対象である昆虫への毒性の割合を示す選択毒性は係数が高いほどヒトへの安全性が高い。急性事故がたくさん起こったパラチオンが、選択毒性の係数が2で害虫と動物の間の毒性はあまり変わらない。ノミ・シラミ対策に学校などでよく使用されていたDDTは59。現在、広く殺虫剤として使用されているペルメトリンでは2143となっている。現在の農薬は格段に進歩している。

「いつまでも農薬バッシングする方々は

DDTやパラチオンの時代のイメージで農薬というのを決め付けているわけですね」

日本における農薬登録制度

農薬登録における安全性に関する試験が非常に多く、非常にコストがかかる。この負担が農薬メーカーにかかり、成り立たなくなってきた。廃業するメーカーも出てきており、世界的にも吸収合併が進んでいる。さらに農業現場へも影響し、病害防除のための資材が減少、農薬コストの上昇が起こっている。結果、病害虫防除への支障や抵抗性発言のリスクが増大することになる。氏は登録・適用拡大に必要な試験に関する柔軟な対応が必要だということ。

「国際基準に合わせて作物残留試験の例数を2例から8例試験しようという提案もありますが、例数が増えればそれだけコストがかかります。2例のままとしても、そのうちの1例は、残留する可能性が高い条件で行い、基準値を下回っていることが証明されれば良いのです。実質的に安全性が担保されていけばいいのです。」

当日には他にも公益法人と天下りの問題、残留基準の国による違いや農薬代替資材などについても言及、忌憚のない議論が進んだ。ご関心ある読者は音声ダウンロードやDVDをご利用いただきたい。

『農業経営者』読者の会

第3回

全国大会

開催場所決定

※日程とテーマを変更しました。

日程 2010年2月10日(水)～11日(木)

会場 晴海グランドホテル2F会議室
東京都中央区晴海3-8-1 (都営大江戸線勝どき駅から徒歩7分)

テーマ:未来のための原点回帰

我われが人間として生きること、社会、ビジネス…すべてに原点が存在します。その原点に立ち戻ること未来から逆算する今日を考える時に、多くのものが見えてきます。そもそも農業の原点とは、お天道様の恵みを最大限に利用して、持続性のある形で、より豊かな実りを得ていくことではないでしょうか。読者の会全国大会では、2008年「イノベ

ーションが農場を変える」、2009年「日本農業のNEXT STAGE」に続く2010年のテーマとして「未来のための原点回帰」を提案します。「増収」「適地(適期)適作」「開拓者精神」など、原点回帰するためのキーワードから、現代において農業・農村が提供しうる商品・サービスとは何か、明らかにしたいと考えています。



●晴海グランドホテルまでのアクセス

- 東京駅から** 八重洲口よりタクシーで15分(佃大橋経由)
丸の内南口よりバス「晴海埠頭行」10分(晴海3丁目下車)
- 有楽町駅から** マリオン前よりタクシー約10分
マリオン前よりバス「晴海埠頭行」で約15分晴海3丁目下車
- 銀座から** 三越前よりタクシーで約5分
銀座4丁目よりバス「晴海埠頭行」で10分(晴海3丁目下車)
- 羽田空港から** 羽田→(モノレール)→浜松町→(タクシー10分)→晴海グランドホテル



第42回 11月2日(月) 16:00~18:00

会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

**オーストラリア・ビクトリア州でMade by Japaneseを考える
~世界の食料庫における農業経営の可能性~**

Made by Japaneseは世界に通用することは今や常識。しかし世界に売るにはどうすれば?どこで何を生産すれば?オーストラリア・メルボルン近郊は世界の食料庫。そこからは売れる市場につながっている。かたや農業経営者は移民。外人だからという垣根はない。世界屈指の安い電気代。台風が来ない肥沃で広大な土地。水が少ないオーストラリアでなぜ農業経営に可能性があるのか?



オーストラリア・ビクトリア州政府
第一次産業省農務局アドバイザー
鈴木洋司氏(すずかわ・ひろし)



オーストラリア・ビクトリア州政府
第一次産業省農務局
農業市場開発部部長
ロス・クラーク氏



オーストラリア・ビクトリア州政府
日本事務所駐日代表
ブルー・ホルスタイン氏

第43回 11月6日(金) 16:00~18:00

会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

**売り先と価格は自分で決める!
コメ農家の営業術**

「あいかわこまち」の独自ブランドでコメの生産・販売をしている(有)藤岡農産は、6年前から東京に社員を常駐して、飲食店への営業を強化している。もともと個人への直販をしてきたが、家庭のコメ消費が減少すると予測して、営業戦略を外食重視にシフトした結果だ。現在は個人約1000人、飲食店70軒と取引があり、各々にあわせた品質と価格を設定している。同社代表の藤岡氏に、コメ農家の営業術を学びたい。

(有)藤岡農産 代表取締役社長

藤岡茂憲氏 (ふじおか・しげのり)



PROFILE

1952年秋田県生まれ。高校卒業の翌日から5年間、登山と放浪の旅に明け暮れ、帰郷後、コメ作りを始める。97年法人化。現在の生産規模は35ha、有機大豆34ha、ハウス野菜74棟(2ha)。「あいかわこまち」の自社ブランドで全量を直売し、2003年から東京にも営業拠点を置く。食料・農業・農村政策審議会食糧部会委員。05年農林水産大臣賞を受賞。

◎**セミナー参加申込**

■参加を希望する項目にして、必要事項をご記入下さい。

月刊「農業経営者」
定期購読者 **無料**

〈セミナー〉

- 11/2 (月) 鈴木洋司氏、ブルー・ホルスタイン氏、
ロス・クラーク氏(16:00~18:00)
- 11/6 (金) 藤岡茂憲氏(16:00~18:00)

〈セミナー終了後の懇親会〉

- 参加(18:00~20:00)
- 参加(18:00~20:00)

※セミナー受講料は定期購読者無料、一般参加者5,000円です。

※セミナー終了後には、懇親会を予定しております。

◎**定期購読申込**

■いずれかにして、必要事項をご記入下さい。

- 1年(12冊) 18,000円**
送料サービス!
- 2年(24冊) 33,000円**
お得な3,000円割引!
- 3年(36冊) 45,000円**
お得な9,000円割引!

※本誌セミナー(年22回)参加料込(一般5,000円/回)

※本誌セミナー全音声ダウンロード(年22回)込(一般視聴不可)

◎**第3回 全国大会資料請求** 2010年2月10日(水)~11日(木)開催

お名前	会社名 農場名	TEL
E-mail	<input type="checkbox"/> セミナー音声聴講パスワード希望	FAX
ご住所 〒		

お申込方法 FAX 0120-410-359まで送信してください。
(『農業経営者』HP <http://www.farm-biz.co.jp/>からもお申込できます)

お問合せ/(株)農業技術通信社「農業経営者」読者の会 事務局 TEL 0120-555-184

※セミナーへの無料参加は、定期購読1件につき、1名様までです。2名様以上でお申込される場合、2人目より2,000円をいただきます。予めご了承下さい。